

1

物語

1 次の(1)～(7)の——線部のカタカナを、漢字に直して書きなさい。

(各5点×7)

(1) 牧場にヨる。

(2) かれはゼンブをりかいしている。

(3) ヒツシに走つた。

(4) コウフクな人生をおくる。

(5) 問題をとく。

(6) 動物をケンキュウする。

(7) 君のことがシンパイだ。

2 次の(1)～(3)の——線部のことばの意味としてふさわしいものを、あとから一つずつ選び、記号で答えなさい。

(各5点×3)

(1) やつてみなければ気がすまない。

ア 満足して気持ちがおさまらない。
イ やろうという気がおこらない。

ウ まったく気にならない。

(2) ゆく末がそらおそろしい。

ア なんとなく不安でおそろしい。
イ おそれるほどではない。

ウ そんなにおそろしくない。

(3) 目の前の光景に息をのむ。

ア おさえていた息を大きくはく。
イ はげしい息づかいをする。
ウ おどろいて息をとめる。

氏名 _____

得点 /100 _____

③ 次の文章を読んで、あとの問い合わせに答えなさい。

いつでしたか、①山で道にまよったときの話です。ぼくは、自分の山小屋にもどるところでした。歩きなれた山道を、鉄砲をかついで、ぼんやり歩いていました。そう、あのときは、まつたくぼんやりしていたのです。むかし、大きだつた女の子のことなんかを、とりとめなく考えながら。

道をひとつまがつたとき、ふと、空がとてもまぶしいと思いました。まるで、みがきあげられた青いガラスのように：すると、地面も、なんだか、うつすらと青いのでした。

「あれ？」

②一瞬、ぼくは、立ちすくみました。まばたきを、二つばかりしました。ああ、そこは、いつもの見なれた杉林ではなく、ひろびろとした野原なのでした。それも、一面、青いききょうの花畠なのでした。

ぼくは、息をのみました。いつたい、自分は、どこをどうまちがえて、いきなりこんな場所にでくわしたのでしょう。だいいち、こんな花畠が、この山には、あつたのでしょうか。

③すぐ、ひきかえすんだ。」

ぼくは、自分に命令しました。そのけしきは、あんまり美しすぎました。なんだか、そらおそろしいほどに。

けれど、そこには、いい風がふいていて、ききょうの花畠は、どこまでもどこまでもつづいていました。このままひきかえすなんて、なんだかもつたいなさすぎます。

④ほんのちょっと休んでいこう。」

ぼくは、そこにこしをおろして、あせをふきました。

と、そのとき、ぼくの目のまえを、チラリと、白いものが走ったのです。ぼくは、がばつと立ちあがりました。ききょうの花が、ざざーと一列にゆれて、その白い生きものは、ボールがころげるよう走つていきました。

（安房直子「きつねの窓」より）

(1) — 線①「山で道にまよった」とあります。この理由を次のように説明するとき、□に入ることばを文章中から四字で書きぬいて下さい。(10点)

（むかし大きだつた女の子のことなどをとりとめもなく考えながら、□して、いたから。）

(2) — 線②「一瞬、ぼくは、立ちすくみました」とあります。そのとき「ぼく」は何を見ましたか。次の文の□に入ることばを、文章中から六字で書きぬいて下さい。(10点)

（野原にひろがる□の花畠。）

(3) — 線③「すぐ、ひきかえすんだ」とあります。ですが、「ぼく」がこのように思つた理由を書いて下さい。(10点)

□

(4) — 線④「ほんのちょっと休んでいこう」と、考えが変わつた理由として最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。(10点)

A 花畠がどこまで続いているか調べたいから。
B ふしぎなことばかりで体がこわばつたから。
C ウ つかれて一步も動けなくなつたから。
D 花畠が美しくて立ち去るのがおいしいから。

(5) 文章の内容と合つているものを次から一つ選び、記号で答えなさい。(10点)

A 「ぼく」はこわくて立ち上がりなかつた。
B 「ぼく」の目の前を白い生きものが走つた。
C 青いききょうが白くなつた。

□

1 次の(1)～(7)の——線部のカタカナを、漢字に直して書きなさい。

(各5点×7)

(1) ボールを|ナ|げる。

(2) 息が|ク|ル|しい。

(3) オオカミの|チ|をひく犬。

(4) 何が|オ|こつたのかわからなかつた。

(5) アタマ|が|ずき|ずき|いたむ。

(6) おかしなカ|オ|つきをする。

(7) ヒヨウバン|の|よい作品。

2 次の(1)～(3)のことばの使い方としてふさわしい文を、あとから一つずつ選び、記号で答えなさい。

(各5点×3)

(1) 「いいわけ」

ア カれの作品の|いいわけ|に感じした。
イ いくらい|いわけ|をしてもむだだよ。
ウ オオカミの|いいわけ|になやまされる。

(2) 「にえくりかえる」

ア 空が|にえくりかえる|と大雨になる。
イ 体|そ|う|で|にえくりかえる|練習|をした。
ウ 腹が|にえくりかえる|ほどおこつた。

(3) 「しかたなく」

ア ぼくはしかたなくお使い|にてかけた。
イ 大好き|なテレビ|をしかたなく見て|いた。
ウ 教室|に花|がしかたなく置|かれて|いた。

〔3〕次の文章を読んで、あとの問い合わせに答えなさい。

① ジジの悲鳴がひびきます。 キキはむちゅうでほうきの柄^えをつかみなおそとしました。でも、どきません。ほうきはまっさかさまに地面にむかっています。

「こつち、こつち、枝をつかんで^{えた}」

キキのスカートにぶらさがっているジジがさけびました。キキは手をむちゃくちやにのばして、さわった枝にしがみつきました。枝はキキがぶらさがると、サークスのブランコのようにゆれだしました。

「あつ、やつた、やつたーっ」

上から声がふってきました。見あげると、白いパジャマを着た小さな男の子が、同じように枝の上でゆれながらのぞきこんでいます。

「つかまえたよーう、おねえちゃん」

男の子はまた大きな声でさけびました。下のほうでぽーっとあかりがひろがり、この木によりかかるようにたつている小さな家の扉^{どびら}があいて、ひとりの女の子がとび出してきました。

〔③ 大きなこ^うもりと、小^さなこ^うもり、つかなさい〕

こうもり？ キキがふしぎに思つて、あちこち見まわすと、ちょうど上をむいていた女の子と目があいました。女の子はぎくつと体をこわばらせました。年ごろはキキと同じぐらいでしようか。

〔④ ※〕

キキは下をのぞいて、しかたなくいました。

「木にぶらさがつてはいるけど、あたし、こうもりじやないわよ」

女の子はわかっているというようにうなずきました。

「うそだーい。こ^うもりだーい。こ^うもりがばけたんだあー。だつて、まつくろじやないか」

男の子は木をゆすつていいかえしました。

〈角野栄子「魔女の宅急便その2」より〉

35

30

25

20

15

10

5

(1) 線①「ジジの悲鳴がひびきます」とありますか。最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。(10点)

ア キキのスカートを放してしまったから。
イ 地面に落ちてしまいそだから。
ウ ジジの手からほうきがはなれたから。
エ ほうきの柄が折れてしまったから。

(2) 線②「また、ういいかげんにしなさい」とありますか。最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。(10点)

ア 大声を出すとみんなにめいわくだよ。
イ 木の上に登るのはあぶないのに…。
エ 何をつかまえたのか早く見てみたい。
オ いつものようにうそに決まっている。

(3) 線③「大きなこ^うもりと、ほら」とありますか。男の子がキキたちをこ^うもりだと思

う理由を、文章中のことばを用いて書いて答えなさい。(10点)

(4) ※に入る最もふさわしいことばを次から選び、記号で答えなさい。(10点)

ア おはよう オ まことにちは イ こんばんは
ウ こんにちは エ こんばんは

(5) 文章の内容^{よう}と合っているものを次から一つ選び、記号で答えなさい。(10点)

ア ジジはキキに枝をつかむように言った。
イ 男の子はキキたちを前から知つていた。
ウ キキはサークスのブランコが得意だ。
オ 女の子はジジと同じくらいの年だ。

5②

説明文

① 次の(1)～(7)の——線部のカタカナを、漢字に直して書きなさい。

(各5点×7)

(1) ボウエキでにぎわう町に住む。

(各5点×3)

(1) 「ひとえに」

ア 発表会が無事終わったのは、ひとえにみんなさまのおかげです。

イ 人間はひとえに生きていくことはできま

せん。

ウ ひとえに言えば、努力につきると思いま

す。

(2) 町のレキシについて調べる。

(3) 一週間テイドでできあがります。

(4) フクスウの時計がかざられる。

(3) 「いかに」

ア 本をいかに読んで、知識をふやすことは大事だ。

イ バランスをたもつことがいかにむずかしいかわかるだろう。

ウ 物をいかに食べると、あぶないこともある。

(7) 高いギジュツが良い品をつくる。

氏名 _____

得点 _____

100

② 次の(1)～(3)のことばの使い方としてふさわしい文を、あとから一つずつ選び、記号で答えなさい。

③ 次の文章を読んで、あとの問い合わせに答えなさい。

人間は水がないところに住むことはできません。

日本のように水にめぐまれている国では、水のないところに住むことができないということを、あまり実感できないかもしれません。実際に水がないところへ行つてみると、ほんとによくわかります。

日本の年間の雨量は一六〇〇ミリ。豊かな水のあるところです。① そういうところで、むかしからふんだんに水を使う習慣を持つた民族は、水のありがたさの感覚がマヒしています。ところが水がないところに行つてみると、いかに人間の生活というものは水に依存しているかがわかります。

私は七七年と七八年に、ギリシアに二回ほど行つたのですが、ギリシアというところは、年間の雨量が日本の四分の一、四〇〇ミリです。しかもこの雨は、全部冬のあいだに降っています。春、夏、秋はほとんど一滴の雨も降りません。ですから② ギリシアにおいては、この冬のあいだに降つたわずか四〇〇ミリの雨が、利用できるかできないかということで、人間の生存というのは決まります。

エーゲ海にあるクレタ島の、東のほうの山の中にあるラシチという盆地に行つたときのことです。この盆地は、だいたい長さ一二キロ、一〇キロの楕円形の盆地です。バスで行つたのですが、山をこえてその盆地にはいつたとき、私はびっくりしてしまいました。③ その小さな盆地には、なんと、風車が六〇〇〇も回つてているのです。見わたすかぎり、まつ白い帆の布をはつた風車が、のどやかに回っています。

その盆地は石灰岩の地帯で、冬のあいだ降つた水が、みんな地下水でたまっています。地下にたまつた水を汲み上げて灌漑がなければ、そこで農業ができるわけです。クレタ島のそのあたりの山は、ほとんどはげ山同然のところなのですけれど、④ そこの盆地だけは、緑したたる沃野がひろがっています。〈根本順吉「地球はふるえる」より〉

(1) 線①「そういうところ」とはどんなところですか。文章中から書きぬいて答えなさい。(10点)

(2) 線②「ギリシアにおいては、△決まります」とあります。これとは反対の日

本人の持ちようについて次のように説明すると
き、□に入ることばを文章中から七字で書きぬいて答えなさい。(10点)
〈日本人はむかしから水をふんだんに使つてき
たので、□の感覚がマヒしている。〉

(3) 線③「その小さな盆地」とはどのくらい
の大きさで、どのような形の盆地ですか。文章
中のことばを用いて書いて答えなさい。(10点)

(4) 線④「そこの盆地」とはどこのことです
か。文章中からその地名を書きぬいて答えなさい。(10点)

(5) 文章の内容と合つているものを次から一つ選
び、記号で答えなさい。(10点)

ア 降水量の少ないギリシアでは、どこでも地
下水を利用した農業がさかんである。

イ クレタ島にある盆地では冬に降つた雨を地
下から汲み上げて農業に活用している。

ウ ギリシアでは冬にはまったく雨が降らない
ので、他の季節の雨を地下にためてある。

エ ギリシアの雨がほとんど降らない地方では
風車を発電などの生活に利用している。

① 次の(1)～(7)の——線部のカタカナを、漢字に直して書きなさい。

(1) 字はセイカクに書くようにしよう。

(各5点×7)

(2) 作品のシツを高める。

(3) キロクをこう新する。

(4) 乗り物はベンリだ。

(5) 天体をカンソクする。

(6) ジモトの人たちと会って話す。

(7) オウダン歩道をわたりましよう。

② 次の(1)～(3)の——線部のことばの意味としてふさわしいものを、あとから一つずつ選び、記号で答えなさい。

(各5点×3)

(1) たえず走りつづける。

ア いつも。

イ がんばって。

ウ ゆっくりと。

(2) げんみつに言う。

ア すばやい様子。

イ どうでもよい様子。

ウ きびしく細かい様子。

(3) めやすをつける。

ア だいたいの目あて。

イ きちんととした目標。

ウ あてずっぽう。

氏名

得点

100

〔3〕次の文章を読んで、あとの問い合わせに答えなさい。

木には紅葉する木と、しない木があります。
杉・ひのき・もみ・松のように葉がほど長くと
がった木（これを針葉樹といいます）は、たいて
いは、冬になつても葉がおちず、青々としていま
す。（①、から松は葉が落ちます）

これに對して葉が平たく、はばの広い木（これ
を広葉樹といいます）には、紅葉する木が多いの
です。うるし・ぶな・かえで・なら・くぬぎなど
は広葉樹です。そして冬には葉がおちます。

そこで、杉やひのきなど、大きな木材をつくる
ためにそだてられた山々は、一年じゅう、うつそ
うとした緑におわれることになりました。一方、
炭焼きにはさまざま木がつかわれたので、炭焼
きのための山々は、①秋になれば緑もあり、赤や
黄やオレンジもある、色とりどりの風景を、つく
り出すことになりました。

また、とくべつな柱をつくるためにそだてられ
た山々は、とくべつにかわったけしきをつくりひ
ろげさせてくれました。②京都には②北山
杉がありますね。

北山杉は、床柱は、床の間を、美しい柱でかざりたい
とねがいました。そこで、③北山の人たちがくふ
うして、そだててきたのが、あのふかくひだのき
ざまれた床柱だったのです。

北山の人たちは、たえずえだうちをかさねなが
ら、とくべつの方法で木をそだて、みがき丸太を
つくっています。

山の中には、お花見でにぎわう山もありますね。
奈良県の吉野山はさくらの名所として知られてい
ます。吉野山がさくらの名所になつたのはじま
りは、苗木のそなえによるものでした。むかし
から吉野権現へおまいりをする人たちは、さくら
をおそなえする習慣があつたのです。それが、美
しいさくらの山をそだてることになりました。

〔富山和子「森は生きている」より〕

35

30

25

20

15

10

5

(1) ①・②にあてはまる、最もふさわし
い接続語をそれぞれ次から選び、記号で答えな
さい。（5点×2）

- ア ところが イ たとえば
ウ ただし エ なぜなら

① ②

(2) —線①「秋になれば緑もあり、色とりど
りの風景」とありますが、そのように「色とり
どりの風景」になる理由を文章中のことばを用
いて書いて答えなさい。（10点）

③ —線②「北山杉」は、どんな目的で育てら
れますか。文章中から八字で書きぬいて答えな
さい。（10点）

(4) —線③「北山の人たちがそだててきた」と
ありますが、そのくふうを次のように説明する
とき、に入ることばを文章中から四字で
書きぬいて答えなさい。（10点）

〔たえず をするなど、とくべつの方法で
みがき丸太を作っている。〕

(5) 文章の内容と合つているものを次から一つ選
び、記号で答えなさい。（10点）

- ア から松以外の広葉樹はすべて葉が落ちる。
イ 吉野山は、山全体がさくらの木である。
ウ 吉野権現にまいる人たちはさくらの苗木を
そなえた。

- エ 北山も吉野山も針葉樹が多い。

1 次の(1)～(7)の——線部のカタカナを、漢字に直して書きなさい。

(各5点×7)

(1) ラクセキに注意する。

(2) 雷メイがどどろく。

(3) 道にマヨう。

(4) チキユウは青い星だ。

(5) くいをウちこむ。

(6) テツでできたくぎ。

(7) イメージをユタかにする。

2 次の(1)～(3)の——線部のことばの意味としてふさわしいものを、あとから一つずつ選び、記号で答えなさい。

(各5点×3)

(1) つぶやきが聞こえる。
ア はつきり言うこと。

(2) イ ぶつぶつと小声で言うこと。
ウ うたうようにしゃべること。

(3) ア 身長。
イ 背丈せたけがのびる。
ウ 背中の大きさ。

(3) ことづけをする。
ア 用事をほかの人にたのんで伝えてもらうこと。
イ 大事な用事をじかに自分で言うこと。
ウ 人から聞いたことをだれかに伝えること。

氏名

得点

/100

3 次の詩を読んで、あとの問い合わせに答えなさい。

山のむこうには

新川和江

山のむこうには

山があつた

その山のむこうにも また

別の山があつた

「人生も 山また山さ」

おじいちゃんが

煙草をとり出しながら 言つた

「人生か——」

ぼくはつぶやいて

雪山のとがつた頂きを見る

ぐんと背丈がのびて

大人になつたような気がする

あの山を越えて行く日のことを思つて

ぼくは 深呼吸をする

⑯ ⑯ ⑯ ⑯ ⑯ ⑯ ⑯ ⑯ ⑯ ⑯ ⑯ ⑯ ⑯ ⑯ ⑯ ⑯

- (1) ⑤行目「人生も 山また山さ」とあります。 「山」と「人生」はどのような点で似ていますか。それを次のように説明するとき、□に入ることばを詩の中から三字で書きぬいて答えなさい。(10点)
- 「山は、一つの山をこえても、また□がありますが、るように、人生も、一つの困難を乗りこえても、新しい困難があるという点。」

- (2) ⑯行目「大人になつたような気がする」とあります。その理由を次から二つ選び、記号で答えなさい。(10点×2)

ア おじいちゃんと話し合つたから。

イ 人生について考えたから。

ウ 山の頂きの雪を見たから。

オ 背丈がのびたような気がしたから。

- (3) ⑯行目「あの山を越えて行く日」とはどのような日のことですか。最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。(10点)

ア おじいちゃんとまた話す日。

イ 山のむこうにある村へ行く日。

ウ 雪山登山に成功する日。

エ 「ぼく」が大人になる日。

- (4) ⑯行目「ぼくは 深呼吸をする」には、「ぼく」のどんな気持ちが表れていますか。最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。(10点)

ア つらいことをなるべく避けたい気持ち。

イ いつまでもおじいちゃんとしたい気持ち。

ウ 人生を切りひらこうとする強い気持ち。

- エ 雪山の頂きをぶじにこえられるか不安な気持ち。

持ち。

1 次の(1)～(7)の——線部のカタカナを、漢字に直して書きなさい。

(各5点×7)

(1) ケイケンを積む。

(2) 大きい荷物をユソウする。

(3) となりに住むロウ夫婦。

(4) 紙をヤブる。

(5) コガイに出て風に当たる。

(6) カザハナがちらつく。

(7) 傷きずのついた品をクベツする。

2 次の(1)～(3)のことばの使い方としてふさわしい文を、あとから一つずつ選び、記号で答えなさい。

(各5点×3)

(1) 「のんびり」

ア たいてい休日はのんびり過ごしている。

イ 大けがをしたので、のんびり病院につれていた。

ウ 作品ののんびりは、きれいに仕上げることが大事。

(2) 「うらやましい」

ア 読みたい本を貸してくれなかつたあの人

がうらやましい。

イ いつもきれいな服を着ているあの少女がうらやましい。

ウ 宿題をわすれて先生にしかられたかれがうらやましい。

(3) 「かさばる」

ア 荷物が大きくてかさばる。

イ 寒さで顔がかさばる。

ウ おなかがへつてかさばる。

氏名

得点 / 100

〔3〕次の文章を読んで、あとの問い合わせに答えなさい。

母は、子どもに高望みをしない人だった。私が幼稚園に入るとき、「どんなお子さんに育つてほしいですか?」というアンケート用紙が配られたそうだが、①一言「素直な子」とだけ書いたという。提出するとき、他のお母さんたちが、細かい字でびつしり書いているのを横目で見て、びっくりしたのだそうだ。

「どうなつてほしいっていうのは、あんまりなかつたんだけど、②こうなつてほしくないっていうのは、結構あつたわねえ」

たとえば? と聞くと、「私が早口だつたから、早口でしゃべるのは注意したわね。それから、本を読むスピードが早いのも、自分なりに反省してから、それもゆっくり読むようになって、諭したわ」。

私が人一倍のんびりしているのは、③そんな母の方針のためかもしれない。「じゃあ、お母さんは、素直じゃなかつたんだね?」と言つたら「えつ」と絶句していただけれど。

子どもは、一番身近にいる母親の真似をする。いいところも、悪いところも。だから悪いところを真似しないように気をつけるというのは、消極的なようだが、一つの教育といえるかもしれない。そして私が本好きになつたのは、まちがいなく母を見て育つたからだ。とにかく活字中毒と言つていいぐらい、常に何かを読んでいた。

大人が楽しそうにしていれば、子どもは興味を持つ。幼いころは、毎日のように「新聞」という読むべきものが届けられる大人を、心からうらやましく思つた。実際、④雪や交通機関の影響で、新聞が遅れると、母の機嫌はすこぶる悪かつた。

〈俵万智「101個目のレモン」より〉

(1) 線①「一言『素直な子』とだけ書いたと

いう」とあります。が、ここから母のどんな人がらがわかりますか。それを次のように説明するとき、□に入ることばを文章中から十一个字で書きぬいて答えなさい。(10点)

〈母の、□という人がら。〉

(2) 線②「こうなつてほしくない」とあります

が、母はどのようなことを望んでいますか。最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。(10点)

ア 自分ができなかつたことをしてほしい。

イ 自分の欠点を見習わいでほしい。

ウ 自分の長所や欠点を教えてほしい。

エ 自分の長所を見習つてほしい。

(3) 線③「そんな母の方針」とは、具体的にはどんな方針ですか。文章中のことばを用いて

書いて答えなさい。(10点)

(4) 線④「雪や交通機関の影響で、すこぶる悪かつた」とあります。このような母の状態を表すことばを、文章中から四字で書きぬいて答えなさい。(10点)

(5) 文章の内容と合つているものを次から一つ選び、記号で答えなさい。(10点)

ア 私のんびりは母ゆずりだ。

イ 私は子ども時代から新聞を読んでいた。

ウ 私は素直な子どもだつた。

1 次の(1)～(7)の——線部のカタカナを、漢字に直して書きなさい。

(各5点×7)

(1) キカイを動かす。

(2) 幸せな子ども時代を過ごす。

(3) ブツシが不足する。

(4) 毛糸をアむ。

(5) ハゴイタで遊ぶ。

(6) 笑いをかみコロす。

(7) ベンゴンになりたい。

2 次の(1)～(3)の——線部のことばの意味としてふさわしいものを、あとから一つずつ選び、記号で答えなさい。

(各5点×3)

(1) おぼろ気にわかつた。
ア はつきりしない様子。

イ いやいやながら、仕方ない様子。
ウ 直感として感じる様子。

ア まったく予想に反して。
イ 予想していたとおり。
ウ 思いのほか。

(2) 案外と覚えている。

(3) 気ままにふるまう。
ア 勝手に。
イ きんちょうして。
ウ 気持ちよく。

氏名

得点

100

〔3〕次の文章を読んで、あとの問い合わせに答えなさい。

当然ながら私もにも、五歳のときがありました。

数えてみると、もう半世紀以上たつてしまいまし
たが、この学齢直前の幼いころのことを、私は
案外と覚えています。

幼稚園教育がまだそれほど一般的でなかった、
昭和のごく初期のことですから、ほとんどの子
は家にいました。①私もそうです。実は町の小さ
な幼稚園に、はいったことは確かにいなかったので
すが、②三日通つただけでやめました。

大げさにいようと、幼稚園で男子の誇りにかかわ
るさわぎが起き、あつというまに、数人がいりみ
だれて取つ組み合う仕儀となりました。あげくは
何人かが泣き、一人は鼻血がでました。ところが
先生は、わけも聞かずに、私ともう一人の子——
二人が勝ち組でした——をひどく叱つたのです。

「こんなところはぼくに向いてない」と、次の
日から断固登園拒否しました。そのときは、な
ぜ自分がそう思うのかを、③母に向かつて懸命に
説明した覚えがあります。どうせ幼児のいうこと
ですから、筋道の通つたことなどいえるわけがあ
りません。自分勝手な理屈をこねたにちがいない
のですが、締めくくりの文句は覚えてています。

「一年生になつたら、ちゃんといくよ。幼稚園
と学校はちがうもん」
そんな申立てを、元小学校教師だった母は認
めて許してくれました。おかげで私は、毎日を気
ままに家のまわりで遊び暮らしていました。
ある日のこと、遊び仲間の数人と、今までいう
"家庭菜園" のトマト畑にはいりこみ、まだ青い
トマトを、全部もぎとつてしましました。夕方に
なつてそのことを知つた菜園の持主が、大将格
だつた私の家へ苦情をいってきたのです。母が
応対にてて、ていねいに事情を聞き、④よくよく
謝つたようでした。

〔佐藤さとる「だれも知らない小さな話」より〕

(1)――線①「私もそうです」の「そうです」と
はどういうことを指していますか。書いて答え
なさい。(10点)

(2)――線②「三日通つただけでやめました」と
ありますが、その理由として最もふさわしいも
のを次から選び、記号で答えなさい。(10点)

ア 男子の誇りにかかわるさわぎがあつたから。
イ 取つ組み合いになつてしまつたから。

ウ 泣いたり鼻血を出したりした子がいたから。
エ 先生からわけも聞かれずに叱られたから。

(3)――線③「母に向かつて懸命に説明した」結
果、母はどうしてくれましたか。書いて答えな
さい。(10点)

(4)――線④「よくよく謝つたようでした」とあ
りますが、その理由とはいえないものを次から
一つ選び、記号で答えなさい。(10点)

ア 家のまわりで毎日気ままに遊んでいること。
イ 青いトマトを全部もぎとつてしまつたこと。
ウ 家庭菜園に勝手にはいりこんだこと。
エ いたずらをした大将格だつたこと。

(5)「私」は小学校入学前の時期をどのように思
い出していますか。最もふさわしいものを次か
ら選び、記号で答えなさい。(10点)

ア そのころから母親にたよつてばかりいた。
イ 長い年月がたつても案外わすれないものだ。
ウ 今思い出すとはずかしいことばかりだ。
エ 一つ一つのことがなつかしい。